

制振工学研究会の 35 年の歩み

井上 茂

(副会長：エヌ・ブイ・テック)

History of 30 years of the Society of Damping Technology

Shigeru Inoue

(Vice-president of SDT : N.V.Tech)

創立 35 周年にあたり、制振工学研究会のこの 35 年の歩みを振り返りながら、これからの研究会の方向性を探り続けています。30 周年のときにも述べましたが、研究会にとって、相変わらず、成熟期と老衰期の狭間で活動を維持しつつある気がします。また、制振というニッチで狭い研究分野でありながら、まだ数多くの課題が残されていると考えていますしその要求内容も変化しており、制振工学研究会としても、基本的な制振事象の解析／解明と制振材料の適用・応用技術の解析、これまでのノウハウ、知見を生かした制振工学分野の人材育成という方向で活動を続けています。さらに、研究会の活性化や活動の停滞を避ける意味からも研究会会員の増強も重要であり、そのために会員情報の充実を図っています。この情報発信強化のために、研究会ウェブサイトの更新をこれまで以上に精力的に実施しています。また、学生会員制度を作り、学生の方も入会しやすくしました。

創立 20 周年から 25 周年にかけては、研究会にとって最も重大な活動成果が実を結んだ結果が現れました。皆さんご存じの、2008 年 8 月の“JIS K7391：非拘束形制振複合はりの振動減衰特性試験方法”の制定と、また同年 4 月の、“制振工学ハンドブック、コロナ社”の発刊です。ひとえに会員の皆様の長期間のご支援とご協力のたまものです。深く、感謝致します。

2009 年には、制振工学分野の人材育成のための講習会の企画・実施をするために「教育研修分科会」を設置して、活動を開始しました。

2010 年には、会員情報の充実ときめ細かな情報発信のため「情報委員会」を設置し、研究会のメールマガジンを e-メールで発行するようになりました。会員の皆様には、情報が確実に届くようになりましたので、研究会の状況もよく把握できるようになったのではと思います。

また、地道な活動ではありますが会報編集委員会では、研究会の活動内容やトピックスを載せた研究会通信をメールマガジンとして毎月発行するとともに、会報をほぼ年 2 回発行して、技術的トピックス、研究会の財政状況や分科会、委員会、WG の活動概要等の各種情報を届けています。会報は設立当初から欠かさずに発行されており、これまでに述べ 66 回（会報 66 号）発行されています。